

2019年7-9月期GDP速報（1次速報値）

～ ポイント解説 ～

令和元年11月14日
内閣府経済社会総合研究所
国民経済計算部

[1] GDP成長率

2019年7-9月期のGDP成長率（季節調整済前期比）は、1次速報値において、実質は0.1%（年率0.2%）と4四半期連続のプラス成長となった。名目は0.3%（年率1.2%）となった。

[2] GDPの内外需別の寄与度

実質GDP成長率（季節調整済前期比）に対する内外需別の寄与度を見ると、国内需要（内需）は0.2%と4四半期連続のプラス寄与となった一方、財貨・サービスの純輸出（外需）は▲0.2%と2四半期連続のマイナス寄与となった。

[3] 需要項目別の動向¹

（1）民間需要の動向

民間最終消費支出については、実質0.4%増と2四半期連続の増加となった。化粧品、パソコン、テレビ等が増加に寄与したとみられる。

民間住宅については、実質1.4%増と5四半期連続の増加となった。

民間企業設備については、実質0.9%増と2四半期連続の増加となった。供給側推計の基礎となる総固定資本形成の動きを見ると、業務用機械等への支出が増加に寄与したとみられる。

民間在庫変動のGDP寄与度については、実質▲0.3%となった。実質の在庫残高の増加幅が2019年4-6月期から縮小（2019年4-6月期1.9兆円、2019年7-9月期0.2兆円）し、2019年4-6月期と比べた増加幅の縮小分（1.7兆円）がGDP成長率に対して寄与した²。

¹ 季節調整済前期比について解説。

² 実額はいずれも実質季節調整値（年率表示）。

(2) 公的需要の動向

政府最終消費支出については、実質 0.5%増と 2 四半期連続の増加となった。公的固定資本形成については、実質 0.8%増と 3 四半期連続の増加となった。公的在庫変動の G D P 寄与度は、実質▲0.0%と横ばいであった。

(3) 輸出入の動向

財貨・サービスの輸出については、実質▲0.7%と 2 四半期ぶりの減少となった。旅行（訪日外国人の国内消費）等が減少に寄与したとみられる。

財貨・サービスの輸入については、実質 0.2%増と 2 四半期連続の増加となった。がん具等が増加に寄与したとみられる。

[4] デフレーターの動向

G D P デフレーターについては、季節調整済前期比で 0.2%となった。国内需要デフレーターは前期比 0.2%となった。外需デフレーターはプラスに寄与した。

G D P デフレーターの前年同期比については、0.6%となった。

[参考]

[1] GNI（国民総所得）の動向

2019年7-9月期の実質GNI成長率は、季節調整済前期比で0.1%（年率0.3%）と4四半期連続のプラスとなった³。海外からの実質純所得（寄与度▲0.0%）がマイナス寄与となった一方、交易利得（寄与度0.0%）がプラス寄与となった。名目GNI成長率については、季節調整済前期比で0.3%（年率1.1%）と4四半期連続のプラスとなった⁴。

[2] 雇用者報酬の動向

2019年7-9月期の名目雇用者報酬は、前年同期比で1.4%増、季節調整済前期比で0.2%増となった。前年同期比については、雇用者数、一人当たり賃金がともに増加に寄与した。実質雇用者報酬については、前年同期比では1.1%増、季節調整済前期比では▲0.0%となった⁵。

（以上）

³ 実質GNI＝実質GDP+海外からの実質純所得+交易利得

⁴ 名目GNI＝名目GDP+海外からの純所得

⁵ 実質雇用者報酬は名目雇用者報酬を家計最終消費支出（除く持ち家の帰属家賃及びFISIM）デフレーターで除して算出した参考値。